

平成 26 年 7 月 2 日  
公益財団法人 日本英語検定協会

**速報！****4 技能型アカデミック英語能力テスト「TEAP」  
第 1 回試験申し込みが終了しました。****全国総申込者数は、約 3,000 名！**

公益財団法人 日本英語検定協会（理事長：松川孝一、所在地：東京都新宿区横寺町 55、以下、「英検協会」）は、学校法人 上智学院（理事長：高祖敏明、所在地：東京千代田区紀尾井町 7-1、以下、「上智大学」）と「大学入試を変える」をコンセプトに共同開発した 4 技能型アカデミック英語能力判定試験「TEAP（ティープ）」（Test of English for Academic Purposes、以下、「TEAP」 [www.eiken.or.jp/teap/](http://www.eiken.or.jp/teap/)）におきまして、昨日 7 月 1 日、2014 年度第 1 回試験の申し込み（5/12～）を締切り、全国の総申込者数が **2,928 名** に達しました。

今年度 2014 年度第 1 回の試験は、7 月 20 日（日）に、全国の 7 都市（札幌・仙台・東京・名古屋・大阪・広島・福岡）の各会場で Reading と Listening で実施いたします。※（注）：第 2 回試験（実施日：9 月 20 日（土））から Writing、第 3 回試験（実施日：12 月 14 日（日））から Speaking がそれぞれ加わり 4 技能すべてが出揃います。（2014 年度はひとまず東京と名古屋会場のみ）

直近 2015 年度入試では、上智大学、立教大学、関西大学がすでにその採用を決定しており、他大学につきましても、全国の国公立、私大を問わず多くの大学がその採用に前向きという報道もあり、東京会場では、想定受験者数を大幅に上回るお申し込みにより早い段階で満席状態となってしまう、増席を求める多数のご要望を頂いたほどです。そこで急遽、会場の追加と増席を図り、当初より約 2 倍のキャパシティを確保いたしました。

昨今、わが国のグローバル人材の育成施策のひとつに大学の入試改革が挙げられ、こと英語に関しては国内外を問わず外部の検定試験の導入が検討されています。「TEAP」は、約 5 年の歳月をかけて英検協会と上智大学がそれぞれ培った英語教育の知見を結集させて開発したテストで、①大学の教育レベルにふさわしい受験者の英語力を正確に測定する試験であること、なおかつ②学習指導要領で求められる高等学校の英語学習を踏まえた問題設計となっていること、しかも③Speaking においては、面接形式を採用し、本来グローバル人材として必要とされる双方向でのコミュニケーション能力を測定するテストであること、等、その多くの特徴から、4 技能をバランスよく測定する国産のテストの筆頭のひとつに位置づけられ、特に初の実施となる 7 月 20 日の第 1 回の試験の申込者数に注目が集まっておりました。※TEAP の主たる特徴は次頁に記載しましたのでご参照願います。

この度、昨日 7 月 1 日にその申し込みが終了したのを受け、急遽、速報としまして全国 7 都市での第 1 回試験の総申込者数をご公表させていただきました。

< 本件の問い合わせ先 >

公益財団法人 日本英語検定協会 広報調査室 皆川英明

TEL: 03-3266-6840 FAX: 03-3266-6570 E-mail: [kouhou21@eiken.or.jp](mailto:kouhou21@eiken.or.jp)

## 「TEAP」の主たる特徴

1. 学習指導要領で求められる高等学校での英語学習を踏まえた問題設計となっています。
2. 早い段階から複数回チャレンジでき、受験者は各大学が設定する「TEAP」の出願基準をクリアすれば入試日に英語の試験を受験する必要がありません。大学側も受験者のより正確な学力を基準に選考できます。  
(※出願基準等は「TEAP」をご採用の各大学にお問い合わせください。)
3. 「TEAP」の結果通知は、受験者の英語力向上のための効果的なフィードバックがされています。
4. 大学で学習・研究する際に必要とされるアカデミックな場面での英語運用力(英語で資料や文献を読む、英語で講義を受ける、英語で意見を述べる、英語で文章を書く…等)をより正確に測定します。
5. 日本の英語学習者の弱点とされる、「Speaking」と「Writing」におきまして、世界的権威のひとつとされる英国・ベッドフォードシャー大学の研究機関、CRELLA(Centre for Research in English Language Learning and Assessment)にその監修を仰ぎ、その質は世界的な基準を満たしたものです。
6. 「Speaking」において面接形式を採用しており、受験者と面接官とのやり取りにより、本来グローバル人材に必要なとされる双方向でのコミュニケーション能力を的確に測定します。

※詳細につきましては、TEAP ウェブサイト <[www.eiken.or.jp/teap/](http://www.eiken.or.jp/teap/)> をご高覧願います。



### ■公益財団法人 日本英語検定協会について

公益財団法人 日本英語検定協会は、「実用英語の普及と向上」を目的に1963年に設立されました。以来、“英検”の名称で親しまれている実用英語技能検定の実施・運営のほか、児童向けの「児童英検」やビジネスパーソン向け英語能力テスト「BULATS(ブラッツ)」、留学・海外移住のための英語運用能力試験である「IELTS(アイエルツ)」、さらには英語教育に関する優秀な研究企画に助成金を交付する「英検研究助成金」制度など、実用英語の普及・向上に向けた様々な取り組みを展開しております。2012年4月、内閣府からの認定書交付を受けて正式な団体名称を「公益財団法人日本英語検定協会」に改めています。

英検協会ウェブサイト:<http://www.eiken.or.jp/>